

ACR 療法（多血小板血漿（PRP）注入）施術説明同意書

皮膚老化の再生を図るために、自己多血小板血漿（以下 PRP と略す）の皮膚への注入を行うことを勧めます。PRP はご自身の血液の中の血小板を濃縮した成分です。PRP の中には皮膚の再生を促進する様々な成長因子が含まれています。PRP 作製作業は、清潔操作で行われ、かつ自己血液であるために、他人からの病気がうつる、あるいは感染症を起こす心配は基本的にありません。

説明

- 施術前に治療部位に表面麻酔を行います。
 - 静脈血採血による合併症は極めて稀ですが、失神・吐き気・静脈炎・内出血・神経損傷を起こす可能性があります。
 - PRP 注入後、腫れや内出血が起こります。
 - PRP 注入液を作製するためには、通常スモールスピッツ:約 10ml・ラージスピッツ:約 20ml(各 1 本あたり)の静脈血を片側の肘の静脈から採血します。
 - 血小板活性を促すためにアドレナリン含有リドカインを少量加える事があります。
 - 施術後にホットタオルで加温します。
 - 他の治療法との比較:ヒアルロン酸やコラーゲン注射、または光線療法とは機序が異なり類似する方法はありません。
 - 治療費は、PRP2cc の施術で 12 万円（別途消費税）。
 - PRP の保管及び移動は行いません。
 - PRP 作製に関わる材料（血液）及び器材は医療廃棄物として処理します。
 - 本治療は「自己多血小板血漿（PRP）を用いた美容療法」（計画番号 PCXXXX）という名称で、特定非営利活動法人日本アンチエイジング医療協会認定再生医療等委員会（認定番号 NB3150019）における審査の後、厚生労働大臣に再生医療等提供計画を提出し、受理されています。また、定期報告義務を有します。
 - 問い合わせ及び苦情は下記にて対応します。
- クリニックフォア新橋 受付 TEL:03-4579-9029

PRP の治療効果

□PRP 注入は、完全にしみ・しわ・たるみを改善するものではなく、個人の自然治癒力を利用しているため、徐々に改善するが、その治療効果に個人差があること及び治療効果を保証するものではありません。また、しみ・しわ・たるみ等の程度によっては複数回の治療が必要となる場合があります。

前述の処置の本態と目的及びその実施に関わる危険性を十分説明しました。

私は全ての質問に私の能力最善を尽くして答えました。また、これからも答えるつもりです。

説明年月日： 年 月 日

説明医師氏名 _____ (自筆署名)

管理者・実施責任者 院長： 圓山 尚

